

How Can We Change the World?

～Lesson 5 I Have a Dream～

授業者 附属池田中学校 中田未来

1. 対象 附属池田中学校第3学年C組 (37名)

2. 単元目標

・知識及び技能に関して

- 関係代名詞 that, which (目的格), 後置修飾の特徴やきまりを理解し, それらを活用して世界のリーダーの行動や考えについて話された英文の内容を聞き取ったり, 読み取ったりする技能を身に付けるようにする。
- 関係代名詞 that, which (目的格) ・後置修飾の特徴やきまりを理解し, それらを活用して, リーダーに必要なことについて考えたことや感じたこと, その理由などを英語で即興で伝えあったり, 話したり, 正確に書いたりする技能を身に付けるようにする。
- 論点や自分の意見を聞き手や読み手にわかりやすく伝えるために, Discourse marker を効果的に使って話したり, 書いたりする技能を身に付けるようにする。

・思考力, 判断力, 表現力等に関して

- リーダーの行動や考えをまとめるために, 世界のリーダーについて書かれた伝記を読んだり, スピーチ等の音声を聞いたりして, 概要を捉えるようにする。
- 自己と社会のつながりを再認識するために, リーダーに必要なことに関して聞いたり読んだりしたことについて, 考えたことや感じたことその理由などを書くことができるようにする。
- 聴衆を勇気づけるために, リーダーに必要なことに関して聞いたり読んだりしたことについて, 考えたことや感じたこと, その理由などを簡単な語句や文を用いて話すことができるようにする。
- 即興的に話す力を高めるために, プレゼンテーションで聞いた内容について, 自分の考えを整理し, 簡単な語句や文を用いて質問したり, 答えたりすることができるようにする。

・学びに向かう力, 人間性等に関して

- リーダーの行動や考えをまとめるために, 世界のリーダーについて書かれた伝記を読んだり, スピーチ等の音声を聞いたりして, 概要を捉えようとする態度を養う。
- 自己と社会のつながりを再認識するために, リーダーに必要なことに関して, 外国語の背景にある文化に対する理解を深め, 読み手に配慮しながら, 簡単な語句や文を用いて, 事実や自分の気持ちを正確に書こうとする態度を養う。
- 聴衆を勇気づけるために, リーダーに必要なことについて, 聞いたり読んだりしたことについて, 外国語の背景にある文化に対する理解を深め, 聞き手に配慮しながら, 考えたことや感じたこと, その理由などを簡単な語句や文を用いて話そうとする態度を養う。
- 即興的に話す力を高めるために, プレゼンテーションで聞いた内容について, 自分の考えを整理し, 簡単な語句や文を用いて質問したり, 答えたりしようとする態度を養う。

3. 指導に当たって

(1) 教材観

本単元では教科書でキング牧師のスピーチやアメリカの公民権運動について学習する。教科書本文やドリル学習を通して関係代名詞 that, which (目的格), 後置修飾の特徴を理解したのち, キング牧師が人種差別にどう立ち向かったのか, 本文の要点を掴む活動をする。具体的には当時の新聞の見出しと教科書本文の出来事を結びつける活動を行い, キング牧師のスピーチ “I Have a Dream” に込められた思いを時代背景とともに理解できるよう促す。そして, その内容からさらに発展させ,

- ① リーダーシップを伸ばすために必要なことについて4人1班でプレゼンテーションをすること
- ② 議論的な探究の問い “To what extent can diverse points of view and empathetic leadership impact democracy?” に対する考えを100語程度の英文で書くこと

の2つをそれぞれ①話すこと[発表], ②書くことの総括的課題として設定した。

総括的課題設定の理由は以下の通りである。

日本財団(2019)18歳意識調査「国や社会に対する意識(9カ国調査)」に基づき実施した本校の学校評価アンケート(2022年11月実施)によると, 対象学年の生徒が2年次に「自分で国や社会を変えられると思う」という問いに対して肯定的回答をしたものは32.8%であった。(図1)また, この数字は日本の18歳に比べ約1.8倍割合の生徒が肯定的な回答をしているが, 中国・アメリカ・インドに比べると, 圧倒的に低い数字となっている。これは, 日本の生徒が「社会が繋がっている, 自分の行動が社会に影響を及ぼすという体験が不足しているため」だと考える。

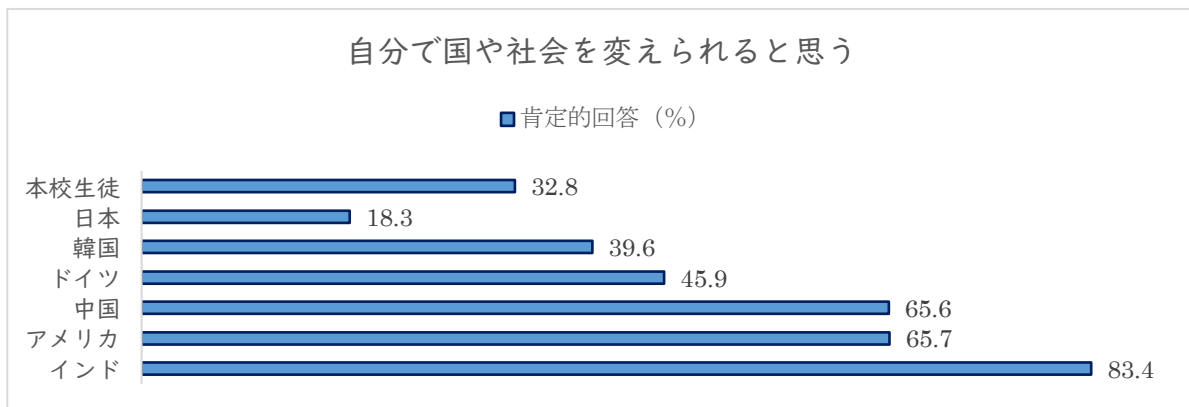


図1: 生徒対象学校評価アンケート結果(2022年11月実施)と日本財団(2019)18歳意識調査「国や社会に対する意識(9カ国調査)」一部抜粋

したがって本単元では, 社会的な話題として世界のリーダーの行動や考えを紹介するだけに収まらず, プレゼンテーションの中でリーダーシップを身につけるために誰もが始められる行動や考えを提案することで生徒が課題を「自分ごと」として捉えられるように設定した。

その上で, 単元の総括的課題では GRASPS (Goal, Role, Audience, Situation, Product, Standard の頭文字をとったもの) にまとめ, 生徒に示す。

Goal(目的) - Your goal is to show understanding our identity is affected by the relationships we form; building rapport requires good communication to see from various points of view and empathy.

Role(役割) - You are a presenter of TED-TALK.

Audience(聞き手) - Your audience is international TED-TALK listeners who want to improve

their leadership skills.

Situation (状況) – You are having a presentation about leadership and encouraging the audience to act positively for others or for the world.

Product (制作物) – You will deliver an 8-minute TED-Talk-style motivational presentation on effective leadership. Afterward, you will write a 100-word essay for a magazine addressing the debated question: To what extent can diverse points of view and empathetic leadership impact democracy?

Standard (基準) – Your work will be judged by Criterion C (presentation) and D (essay).

総括的課題①のプレゼンテーションの目標は、学習指導要領「社会的な話題について、聞いたり読んだりしたことについて、考えたことや感じたこと、その理由などを、簡単な語句や文を用いて話すことができるようにすること」（学習指導要領「話すこと[発表]」ウ）に当たる。平成29年告示の中学校学習指導要領解説外国語編には「外国語でコミュニケーションを行うには、社会と世界の関わりの中で事象を捉えたり、外国語やその背景にある文化を理解するなどして相手に十分配慮したりすることが重要である」と述べられている。「相手に十分配慮する」ためには、相手が誰で、何を望み、どのような背景を持っているのか知ることから始まると考える。したがって本単元では、今回のプレゼンテーションに取り組む上で大切な視点として、聞き手を「勇気づける」ための英語表現や内容、構成にすることが必要である。このように、生徒が目的や場面に応じて適切に物事を考え、判断し、表現することで「思考力・判断力・表現力等」を育むことをねらいとしている。

次に本時で扱う話すこと[発表]・話すこと[やり取り]の活動について、詳しく述べる。speech presentation は①impromptu(準備をせず即興的に話す)②manuscript(準備した原稿を読み上げる)③memorized(原稿を暗記して話す)④extemporaneous(しっかりと準備をするが、最小限のメモだけ見て話す)という4つの種類に分類される。Jean(1999)は “If your goal is to speak to your listeners in a warm, relaxed manner, yet provide well-reasoned, persuasive, strategies to achieve your speech purpose, you’ll probably choose the extemporaneous method. Research and outline carefully to give credibility to your ideas. Practice and rehearse orally to make your words memorable.” と述べている。本単元では聞き手を勇気づけるプレゼンテーションをすることが求められており、これは上記の Jean が述べている目標と一致する。したがって、本単元では④extemporaneous の手法を取るプレゼンテーションを行うこととした。さらに、実際の TED-talk で話されている Discourse marker を生徒自身が分析する活動を設け、Discourse marker を効果的に使って話すことで論点や自分の意見を聞き手にわかりやすく伝えることができる生徒を育成したい。

また、生徒はプレゼンをするだけでなく、以下のような役割を持ち、1時間の授業を進めていく。

役の名前	役割	Speech presentationの種類
LM (Leader of the Meeting)	司会 Opening speech	② manuscript/③memorized ③ extemporaneous
PR (Presenter)	プレゼンテーションをする	④ extemporaneous
Q (Questioners)	プレゼンテーションに対する質問をする	① impromptu
TK (Time Keeper)	時間を計測し、知らせる	—
J (Judge)	ベストプレゼンテーションを選ぶ	—

以上のように、目的に合わせて speech presentation のあり方を変えながら、英語で話す力を養いたい。

また、総括的課題②のエッセイライティングの目標は、学習指導要領「社会的な話題について、聞いたり読んだりしたことについて、考えたことや感じたこと、その理由などを、簡単な語句や文を用いて書くことができるようにすること」(学習指導要領「書くこと」ウ)に当たる。雑誌の記事として、プレゼンで示したリーダーシップ論を踏まえながら、個人で考えたことを英語で表現する活動である。

単元の終わりに、生徒一人ひとりが既習の英語表現を駆使し、実生活と結びつけながら、自分の言葉で社会的な話題について考えや理由などを伝える力を育むことは、高等学校において幅広い話題について適切に自分自身の立場や考えを表現することにつながり、グローバル市民として、自分は世界の一員としてどう行動すべきなのかを考える礎となるものである。

(2) 生徒観

本単元対象生徒には、話すこと・書くことについてそれぞれ課題がある。本年度より OPP シート (OPPA 論: One Page Portfolio Assessment に用いるシート、詳細は指導観で述べる) を導入した。生徒は単元の最初と最後に同じ本質的な問いに答え、毎授業の最後に OPP シートに「授業タイトル」「今日の授業で一番大切だと感じたこと」「疑問に思ったこと・知りたいこと」を振り返り、記述している。ここでは、その記述内容や会話テスト、全国学習調査の結果を踏まえて、話すこと・書くことにおける課題を分析する。

まず、話すことに関しては、1学期は簡単な語句や表現を使って即興で話し、質問をすることに取り組んできた。4月当初は正しい文法で話そうとしたり、辞書や翻訳サイトで調べた語彙を覚えてそのまま話そうとしたりするあまり、言葉に詰まる生徒が多くいた。そこで、Canale & Swain(1980)によって提唱された Communicative Competence は Grammatical Competence, Sociolinguistic Competence, Strategic Competence, Discourse Competence の4つの要素から成り立っていること、それぞれがどのような能力を指すのかを紹介し、Strategic Competence を高めるため、会話の中で “What does XX mean?” “Please say that again.” “I don’t know but I’ll check it later.” などの Negotiation phrases を使う練習を取り入れた。図2を見ると、今まで grammar の form や meaning にばかり気を配って会話していたところから、聞き手との関係性に合わせた適切な語彙の使用を心がけたり、わからないときにそのことを伝えようとする態度が養われてきたことがわかる。

Figure 2 displays three OPP sheets from a student's reflection on an interview test practice. Each sheet has a title and a main body of text, with handwritten red notes and arrows pointing to specific parts of the text.

- Sheet 1 (Left):** Title: ⑬ 応答. Main text: 今日授業で一番大切だと感じたことを書きましょう。今回の授業では、インタビューテストの練習をした。そこで教えてもらったことは、相手の答えに対して、oh OKなどの軽い応答をいった後に、次の質問を始めることだ。それをいれることで、理解しているということがその応答で相手も軽く読み取ることができると思った。逆に、わからないときは前にummと言ったりして、聞き直したりするのをいきなりではなく、滑らかにおこなうことができると思った。
Handwritten notes: (1)と(2)だね、ふいふのを filler words といいよ! しらべとめいれ
- Sheet 2 (Middle):** Title: ⑬ Sorry I didn't understand. Main text: 今日授業で一番大切だと思ったことを書きましょう。外国人は日本の食べ物とかを知らないから、それを外国にもあるものに置き換えて相手が想像できるように説明することが必要。自分が想像していたものと違う答えが返ってきたり、自分がわからないことを言われてもそこで止まるのではなく、繰り返す。わからないことはわからないと言うことが大事。
Handwritten notes: access hotel すごいアクセスいいはgood access ていいのか コスバいいはgood cost performance なのか
- Sheet 3 (Right):** Title: ⑬ 意識して効果を高めよう! Main text: 今日授業で一番大切だと思ったことを書きましょう。コミュニケーションを取るために必要な四つの能力を知って、その四つのどれもが自分に足りていないと感じたので次の授業でスピーキングテストの練習をするときはそれらを意識しながら行うことが大切だと感じました。
Handwritten notes: 完璧な人はいません! とにかく話すの練習を頑張るといいよ

図2：1学期インタビューテスト練習に関する生徒記述 OPP シート

また、総括的課題において GRASPS を明示することにより、場面・状況に合わせた会話の組み立てをし

ようにする様子も見られた。(図3)

Figure 3 shows two student reflection sheets. The first sheet (13) is titled "Speaking with Customers" and the second (14) is titled "Interview Test". Both sheets have a header "今日の授業のタイトルをつけてください。" and a sub-header "今日の授業で一番大切だと思ったことを書きましょう。". The sheets contain handwritten Japanese text and red annotations. The first sheet (13) has a red note: "実際に音声が聞き取れないように!". The second sheet (14) has a red note: "資料を参考に活用した!".

図3：1学期インタビューテスト練習(13)、インタビューテスト本番(14)に関する生徒記述OPPシート

令和5年全国学力学習調査の結果では、話すこと(発表)の項目の「社会的な話題に関して聞いたことについて、考えとその理由を話すことができるかどうか」を問う問題において、正答率が30%を下回っていた。生徒は日常的な話題に関して話すことにはずいぶん慣れてきたものの、社会的な話題に関して考えを深めたり、それらを英語で表現するための語彙が不足していると考えられる。

そこで、本単元における人権など社会的な話題については、人権や平等に関わる語彙を reading や listening 活動を通して input し、その内容を生徒自身の言葉も用いながら十分に準備をした後英語で output するプレゼンテーションを話すこと(発表)の総括的課題とした。

書くことに関しては、令和5年全国学力学習調査の結果では、「未来表現(be going to)の肯定文を正確に書くことができるかどうか」「疑問詞を用いた一般動詞の2人称単数過去形の疑問文を正確に書くことができるか」など正確性を問う問題の本校生徒正答率は85%程度であるが、「日常的な話題について、事実や自分の考えなどを整理し、まとまりのある文章を書くことができるかどうか」を問う問題は正答率が40%を下回っている。つまり、正確に書くことはできても、考えをまとめ、まとまりのある文章を書くことには課題が残る。読み手に自分の考えがわかりやすく伝わるような構成や、具体例を入れた論理的な文章を書くことに困難を感じる生徒はさらに多いと予想される。以上を踏まえて、本単元では論理的に構成された文章を読んだり、生徒の書いた文章をお互いに読み、ルーブリックに基づく評価とそのコメントを書いたりする活動を入れることで、内容のまとまりを持たせて書く力を育てたい。

最後に、令和5年10月実施の本校生徒3年生対象アンケート(n=133)によると、英語が嫌いだ、どちらかというと嫌いだと感じる生徒は全体の27.6%にのぼり、その理由として多く挙げられたのが「定期テストや実力テストで点が取れないから(86.5%)」「他の人と比べてできていないと感じるから(70.3%)」「英語で話すことに自信がないから(67.5%)」「会話テストで点数が取れないから(62.2%)」であった。このことから、生徒が英語という教科に興味がないのではなく、英語が分かる・できるといった体験や自信が少ないことにある。一方で令和5年4月実施の英検 IBA テスト(Reading & Listening)の結果によると本校生徒の約30%の生徒は英検2級以上の力を持っており、英語を得意とする生徒と自分自身を比べることによって自信を失っている側面も見られる。この状況を踏まえ、プレゼンテーションの進行やタイムキーパー、評価など生徒がそれぞれの得意なことを活かしながら1つのことに取り組める協働的なタスクを設定した。

生徒は、単元の1時間目に重要概念、探究の問いに対する自分の考えを書く。また、この単元で伸ばすべきATLスキルがどの程度身についているか、自己評価をする。堀(2018)は、学習前・後の「本質的な問い」は学習者に身につけてほしい資質・能力がどのような状態であるかを確認し、その力をつけるための働きかけであるとしている。これは、国際バカロレアの単元を通して概念に対する理解を深めるという概念学習に共通する考えである。

その後も、単元を通した毎授業の終わり5分で生徒は「授業のタイトル」「授業で一番大切だと思ったこと」「疑問点」を書きシートを提出する。教師は生徒の記述にコメントを書く。堀(2018)は教師からのコメントについて、「適切なコメントとは、学習者の最近接発達の領域に働きかけることができるようになるコメントである。しかも、その内容ができるだけ短い方がよい。(中略)そのコメントにより学習者が学習内容をさらに深め考えさせることができ、授業中ではできないがOPPシートで可能になる働きかけがある」と述べている。

5月に実施した生徒対象アンケート(n=131)によると、教師とのやり取りを通して、生徒が考えを深化させていることがわかる。(図7)。また、自分の学びを整理することができていると感じる生徒が約7割いる。(図8)学習全体を振り返り、何がどう変容し、どう思考しているのかを自己評価することが、メタ認知の能力を高めることにつながっていると言える。以上のことから、OPPシートの活用は個別最適な学びを促し、生徒が自己調整しながら学びを深めていくのに寄与しているといえる。ただ、そこから新たに問いを立て、探究するところには十分に至っていないことがわかる。(図9)そこで本単元では、生徒が教材を自分で選択し、自分の学びに責任を持たせることによって、生徒自らが学びを深めるために「何がわからないのか」「何を知る必要があるのか」を主体的に考えることができるよう促す。

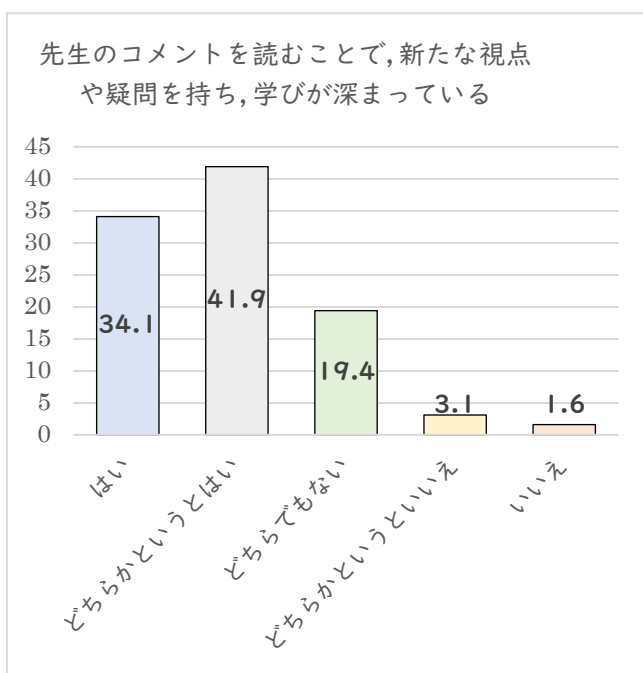


図7

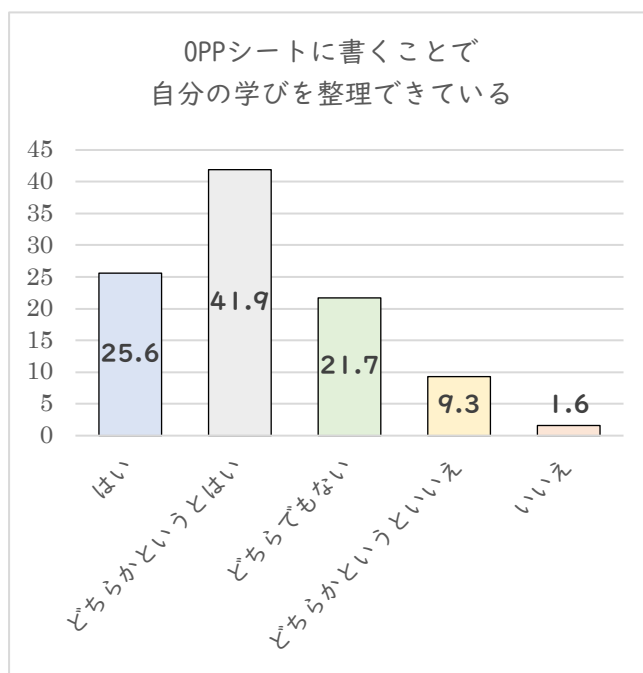


図8

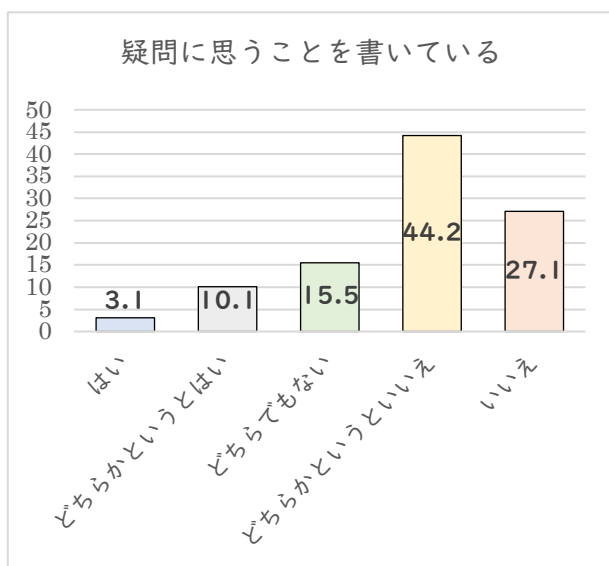


図9

次に、生徒が自身で教材を選ぶことが、主体性を育むことにつながるのかを述べる。「自己決定理論」(Self-determination theory 以下 SDT: Deci & Ryan, 1985, 2002)によると、以下の3つの心理的欲求が満たされた場合、学習者が内発的に動機づけられるとしている。

- ①「自律性の欲求」(the need for autonomy) :
自分の行動を自分で決定し、その行動に自分で責任を取りたいという欲求
- ②「有能性の欲求」(the need for competence) :
やり遂げる自信や自分ができるとい能力を示したいという欲求
- ③「関係性の欲求」(the need for relatedness):
周囲の人や社会と密接な繋がりを持ち、他者と友好的な関係を築きたいという欲求

さらに、Noelsらの研究(Noels 2001, Noels et al 2000)は、外国語学習においてより自己決定的な機会を与えられた学習者や、自分自身の外国語力に自信のある学習者は、より内発的に動機づけられていると感じると述べている。つまり、先に述べた3つの心理的欲求を満たすことは外国語学習における動機づけにも多いに関連すると言える。

そこで、本单元では、①「自律性の欲求」(the need for autonomy)を満たすため、紹介するリーダーを生徒が自由に選べるように設定した。田中・廣森(2007)は自律性の欲求を満たすための教師の役割について「学習事項や解答を学習者に提示することではなく、学習者が自ら考え行動することを支援し、彼らの責任や選択を支援することである。」としている。そこで、教師は足場掛けとし、生徒がひとり1台のタブレット端末を使用し、情報を検索するよう促す。このことで、生徒は自分の英語力に合わせて、情報を収集することが可能になる。さらに情報を英語で収集することが難しい生徒のサポートとして、比較的容易な英語で世界のリーダーの biography がまとめてあるサイト(Duck Stars Biography for kids)を紹介する。Outputに関しては、クラスメイトがわかる簡単な英語で表現できるよう、teacher's feedbackやPeer feedbackの機会を多く与え、生徒が自律的に学習できるよう促す。こういった指導は、令和3年答申でも述べられている「個別最適な学び」のうち、教師が生徒一人ひとりに応じた学習課題に取り組む機会を提供することで、生徒自身が学習が最適となるよう調整する「学習の個性化」に当た

る。

総括的課題のグループプレゼンテーションでは、先に述べた心理的欲求の②「有能性の欲求」(the need for competence) ③「関係性の欲求」(the need for relatedness)を満たすよう指導する。グループプレゼンテーションを通して、生徒は内容の一貫性や論理性を満たすよう班員とテーマについてよく話し合い、互いのプレゼンテーションについて feedback を行う。そのことによって、学習者の周囲の人と繋がりをもちたいという「関係性の欲求」を満たす。また、協働学習を通して「有能性の欲求」を満たす。田中・廣森(2007)は有能性の欲求を満たすには指導者が「学習者のつまずきに対して、タイミングよくヒントを与える、あるいはタスクの難易度を適切に調整することによって、彼ら自らの学習成果に満足し、学習がうまく進んでいると感じることができるよう介入を行う」ことが大切であると述べている。そこで、この活動においては、班の中で、生徒の得意不得意に合わせた明確な役割を与えることによって、自分一人ではできなかったことまでできたという有能感が味わえるようにする。また、教師からタイミングよくヒントを与えることについては、授業での観察を通じた feedback や OPP シートを用いた生徒と教師とのやり取りの中で、生徒の変容やつまずきをみとりながら、授業を構築し、形成的に評価していく。

生徒はグループプレゼンテーションに至るまでに、世界のリーダーの行動から、「リーダーに必要な資質」を考え、その資質を伸ばすために、誰にでも始められる日々の行動や考えに落とし込む。この過程の中で、「リーダーはすごい」という考えで終わるのではなく、具体的に何ができるか、自分の行動がどのように社会貢献につながるのかをイメージするように促す。プレゼンをする際はあらかじめ練習した内容を「発表」するだけでなく、発表内容について即興的に評価コメントを行うなど即興的にやり取りを行う力を育成する。

こういった協働的な学びの中で、自分の責任を全うしながら、社会の一員としての自覚が芽生え、本校の今年度の研究テーマである「グローバル社会を協働的に創造する資質・能力の育成」に寄与できるのではないかと考える。

4. 評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
【知識】 ① 関係代名詞 that, which (目的格)・後置修飾を含めた文の構造を理解している。	①リーダーシップを身につけるのに必要なことや、世界のリーダーについて知らせるために、リーダーシップについて簡単な語句や文を用いて正確に書いている。	①リーダーシップを身につけるのに必要なことや、世界のリーダーについて知らせるために、リーダーシップについて簡単な語句や文を用いて書こうとしている。
【技能】 ①関係代名詞 that, which (目的格)・後置修飾を活用して、リーダー論や世界のリーダーがしたことについて聞き取る技能や、書かれた内容を読み取る技能を身につけている。	②世界のリーダーについて知るために、世界のリーダーの人生について書かれた伝記を読んだり、平等な世界の実現を呼びかけるスピーチ等の音声を聞いたりして、要点を捉えている。	②世界のリーダーについて知るために、世界のリーダーの人生について書かれた伝記を読んだり、平等な世界の実現を呼びかけるスピーチ等の音声を聞いたりして、要点を捉えようとしている。

<p>② 論点や自分の意見を聞き手や読み手にわかりやすく伝えるために, Discourse marker を効果的に使って話したり, 書いたりする技能を身に付けている。</p>	<p>⑤ リーダーシップを身につけるのに必要なことや, 世界のリーダーなどについて伝えるために, 英語で書かれた伝記や世界を変えるためにできることについて英語で話されているプレゼンを元に考えをまとめ, 簡単な語句を用いて伝えたり, 質問したり, 答えたりしている。</p>	<p>③ リーダーシップを身につけるのに必要なことや, 世界のリーダーなどについて伝えるために, 英語で書かれた伝記や世界を変えるためにできることについて英語で話されているプレゼンを元に考えをまとめ, 簡単な語句を用いて伝えたり, 質問したり, 答えようとしている。</p>
--	--	---

5. 単元指導計画 (全 21 時間)

時間	学習内容 ねらい (■), 言語活動等 (丸数字)	主な評価規準	評価の観点			評価方法
			知技	思考	態度	
1	<p>■探究テーマを通して単元の目標を理解する。</p> <p>■リーダーシップとは何かについて考える。</p> <p>① OPP シートの単元前の項目に答えることで, 重要概念や探究の問いについての単元前の考えをまとめたり, 生徒自身の ATL skill について把握したりする。</p> <p>② 他教科で学んだ知識や, 生徒自身の経験からリーダーシップについて考える</p>	<p>リーダーシップを身につけるのに必要なことや, 世界のリーダーについて知らせるために, リーダーシップについて簡単な語句や文を用いて書こうとしている。</p>			●	OPP シート
2-5	<p>■Lesson 5 I Have a Dream を読んだり聞いたりして, 概要を把握し, 考えたことや感じたことを伝え合う。</p> <p>① 関係代名詞 that, which (目的格), 後置修飾の特徴やきまりを理解する。</p> <p>② キング牧師のスピーチを聞いて, もっとも伝えたい</p>	<p>関係代名詞 that, which (目的格) ・後置修飾を活用して, 世界のリーダーがしたことについて聞き取る技能や, 書かれた内容を読み取る技能を身につけている。</p> <p>キング牧師について知るために, リンカーン記念公</p>	●	●		観察 ワークシート

	<p>こと（要点）を捉える。</p> <p>③ 教科書本文や1970年代当時のアメリカの新聞記事を読んで、社会背景についての流れを捉え、キング牧師が行ったことについて概要を掴む。</p> <p>④ 教科書本文の音読練習をする。</p> <p>⑤ 教科書本文の内容に Display question と Referential question のを作り、生徒同士で互いの質問に答える。</p> <p>⑥ ガンジー・キング牧師についての動画視聴し、キング牧師やガンジーがどのように人々の心を動かしたのかをまとめ、自分の考えをペアやクラスメイトに伝える</p>	<p>園で披露されたスピーチを聞いて要点を捉えている。</p> <p>リーダーがどのように困難を乗り越えたかを知るために、キング牧師について書かれた英文を読んで、要点を捉えている。</p> <p>リーダーシップを身につけるのに必要なことについて考えるためにリーダーについて簡単な語句を用いて伝えたり、質問したり、質問に答えようとしている。</p>				
6,7	<p>■プレゼンの効果的な方法を理解する</p> <p>① 4人1グループでTEDTALKを分析し、プレゼンのコツを知る。</p>	<p>論点や自分の意見を聞き手にわかりやすく伝えるために、効果的に話す方法を分析しようとしている。</p>				観察 ワークシート
8-11	<p>■理想のリーダーの特徴について自分なりの考えを持つ</p> <p>① 第7時までに考えたことをもとにペアで以下の（ ）に入れる英語を考え、理想のリーダーについて4人班で定義をする。 A desirable leader is a person who ().</p> <p>② ② ①の定義にあった人物を4人班で1または2</p>	<p>リーダーシップを身につけるのに必要なことについて知らせるために、良いリーダーの資質について簡単な語句や文を用いて正確に書いている。</p>		●	●	観察 ワークシート 生徒の相互評価

	名選び、プレゼンの Body のパートに対する アイデアを深める。					
12-18 【本時 第17 時】	<p>■ リーダーシップを伸ばすためにできることについて 4人班でプレゼンをすることを通して、リーダーシップについて考えたことを具体的な例と共にクラスメイトに伝える。</p> <p>① プレゼン大会の進行の仕方について学ぶ。</p> <p>② プレゼンの準備をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・プレゼンの Key Phrase を考える ・プレゼンの原稿を書く ・どこを強調して言えばいいか考え、練習する ・リハーサルをし、peer feedback を行う <p>③ プレゼンをする。</p>	リーダーシップを伸ばす方法について伝えるために、世界のリーダーについて聞いたり読んだりしたことをについて、考えたことや感じたこと、その理由などを簡単な語句や文を用いて話している。		○	○	パフォーマンス評価, 振り返りシート
19-20	<p>■ 議論的な問い “To what extent can diverse points of view and empathetic leadership impact democracy?” に対する答えを 100 語程度の英語で書く。</p> <p>① 個人で書く。</p> <p>② クラスメイトの writing をルーブリックに合わせて評価し、コメントも書く。</p> <p>③ ②の peer feedback をもとに書き直す。</p>	<p>論点や自分の意見を読み手にわかりやすく伝えるために、Discourse marker を効果的に使って探求の問いに対する答えを書く技能を身に付ける。</p> <p>世界と自分との繋がりについての考えを伝えるために、探求の問いに対する答えを簡単な語句や文を用いて書いている。</p>	○	○	○	パフォーマンス評価
21	<p>■単元の振り返りをする。</p> <p>① OPP シートの単元後の項目に答えることで、重要概念や探究の問いについての単元</p>	単元を通した自身の変化をまとめることを通して、重要概念 “communication” に対す			○	振り返りシート

	前, 単元中, 単元後の変化をまとめたり, 生徒自身の ATL skills の伸長について把握したりする。	る考えがどう変わったかや ATL skills の伸長について把握しようとしている。				
--	--	--	--	--	--	--

●・・・形成的評価（指導に活かす評価）

○・・・総括的評価（記録に残す評価）

6. 本時の展開

(1) 本時の目標

- リーダーシップを身につけるのに必要なことを伝えるために, 世界のリーダーについて聞いたり読んだりしたことを通して, 考えたことや感じたこと, その理由などを簡単な語句や文を用いて話すことができる。

(2) 本時の評価規準

- リーダーシップを身につけるのに必要なことを伝えるために, 世界のリーダーについて聞いたり読んだりしたことを通して, 考えたことや感じたこと, その理由などを簡単な語句や文を用いて話している。
- 自分自身について伝えるために, 自分自身の生活や興味のあることに関するトピックについて, 即興的に英語で話そうとしている。

(3) 本時で発揮されるグローバル市民性について

Global competence (国際的な能力) のという考えが最近注目されるようになった。英語教育では「コミュニケーション能力」「異文化理解能力」「グローバル市民力」として形容されることが多いが, いまだに共通の定義がない。そこで, ここでは OECD(2018)の公式ホームページでのグローバル・コンピテンスと, 本授業の関わりを述べることにする。

OECD(2018)では公式 HP でグローバル・コンピテンスを

- 1) 地域的, 世界的, そして異文化間の問題を検討する能力
- 2) 他者の視点と世界観を理解し認める能力
- 3) 異なる文化を持つ人々とオープンで適切で効果的な関わりを持つ能力
- 4) 共同体の幸福と持続可能な開発のために行動する能力

と定義している。



本時では

- ・社会科で学んだ知識や, 世界のリーダーについてのプレゼン内容をもとに, 班員と協働的に学ぶことを通して, 「人の心を動かすものは何か」「私たちはリーダーシップを身につけるために何ができるか」について, 根拠を持って述べられるよう考えを深め, 広げていく。このことで(2) **他者の視点と世界観を理解し認める能力**を高めたい。
- ・リーダーシップを身につけるのに必要なことについて, 中学生でもできる行動に落とし込んで提案す

ることを通して、社会のために自分は何をすべきか、何ができるかを自分ごととして捉られるようにする。このことは(4) 共同体の幸福と持続可能な開発のために行動する能力を高める第一歩になると考える。

・聴衆を勇気づける言葉で表現することを通して、聞き手を意識した話し方を心がける。このことは(3) 異なる文化を持つ人々とオープンで適切で効果的な関わりを持つ能力を育むことにつながると考える。

(4) 展開

学習過程	学習活動および内容	指導上の留意点	評価の観点・方法
導入 7分	<ul style="list-style-type: none"> 単元の学びの復習 本時の流れ・目標の確認 	<ul style="list-style-type: none"> 本時の流れ、目標を提示し、生徒の役割を確認する。 	
展開 35分	<ul style="list-style-type: none"> Leader of Meeting (LM:生徒代表1名) によるオープニング挨拶 LMによるプレゼンター紹介 4人1組プレゼンテーション「リーダーシップを高めるための方法」(4~5分×3グループ) Questioners または audience によるプレゼンに対する質問(各3分) Today's best presentation に投票、結果発表 	<ul style="list-style-type: none"> 原稿を読んでも構わないが、聞き手に視線を向けさせる。LMは最初の2文は暗記して言えるようにするよう伝える。 聴衆を勇気づける話し方を心がけさせる。 スライドの文字は最小限にさせる。 ディスコースマーカーを効果的に使用させる。 英語で表現できない場合は日本語で質問しても良いこととし、その場合は教師のサポートのもとクラス全員で質問内容を考える 	<ul style="list-style-type: none"> ルーブリックに基づくパフォーマンス評価
まとめ 8分	<ul style="list-style-type: none"> 教員からフィードバックをもらう(3分) OPPシート記入(5分) 	<ul style="list-style-type: none"> 教師が口頭でFeedbackする。 	<ul style="list-style-type: none"> 口頭による評価 OPPシートによる評価

(5) 準備物

Presentation Session Key Phrase Sheet ・ iPad ・ 電子黒板

7. 参考文献

1. OECD. (2018). PISA 2018 Global Competence.
<https://www.oecd.org/pisa/innovation/global-competence/>
2. Deci, E. L., & Ryan, R. M. (Eds.). (2002). Handbook of self-determination research. University of Rochester Press.
3. Noels, K. A., Pelletie, L. G., Clement, R., & Vallerand, R. L. (2000). Why are you learning a second language? Motivational orientation and self-determination Theory. Language Learning.
4. Technological Solutions, Inc. (n.d.). Duck Stars Biography for kids.
<https://www.ducksters.com/biography/> (Accessed 28 Sep. 2022)
5. TED-ed. (2013). Write your story change history - Brad Meltzer.
<https://youtu.be/9LR7Vb6mqts> (Accessed 22 Oct. 2022)
6. 文部科学省. (平成 29 年告示). 中学校学習指導要領 外国語 解説編.
7. 文部科学省. (令和 2 年 3 月). 「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料 中学校 外国語科.
8. 日本財団. (2019). 18 歳意識調査 「国や社会に対する意識 (9 カ国調査)」.
9. 堀哲夫監修・中島雅子編著. (2022). 一枚ポートフォリオ評価論 OPPA でつくる授業. 東洋館出版社.
10. 田中博晃・廣森友人. (2007). 英語学習者の内発的動機づけを高める教育実践的介入とその効果の検証.